

令和6年1月長浜市教育委員会定例会 会議録

I. 開催事項

1. 開催日時

令和6年1月25日（木） 午後1時30分～午後1時57分

2. 開催場所

教育委員会室（長浜市八幡東町632番地 長浜市役所5階）

3. 出席者

教育長	織田 恭淳
委員	前田 康一（教育長職務代理者）
委員	中村 亜紀
委員	松宮 誠也
委員	兼子 貴絵
委員	前川 加奈子

4. 欠席者

なし

5. 出席事務局職員

教育部長	内藤正晴
次長兼教育総務課長	山岡万裕
次長	東野裕賢
管理監	
兼未来創造部管理監（未来こども若者担当）	為永智子
教育改革推進室長	成田健
教育指導課長	高山義雄
すこやか教育推進課長	河合保
幼児課長	今田元宏
教育センター所長	橋憲照
教育総務課長代理	富岡誠
教育総務課副参事	渡邊光徳
教育総務課主幹	川瀬奈津代

6. 傍聴者

なし

## II. 会議次第

### 1. 開 会

### 2. 議 事

日程第 1 会議録署名委員指名

日程第 2 会議録の承認

日程第 3 教育長の報告

日程第 4 議案審議

議案第 1 号 長浜市園職員（短期間勤務）候補者登録制度実施要綱の  
制定について

日程第 5 協議・報告事項

（1）長浜市保育所規則の一部を改正する規則の一部改正について

（2）長浜市立保育所等延長保育事業実施要綱の一部改正の廃止につい  
て

（3）長浜市民間認定保育所及び認定こども園運営補助金交付要綱の  
一部改正について

（4）長浜市病児保育施設整備費等補助金交付要綱の一部改正について

日程第 6 その他

### 3. 閉 会

## III. 議事の概要

### 1. 開 会

教育長から開会宣言があった。

### 2. 会議録署名委員指名

前田委員、中村委員

### 3. 会議録の承認

12月定例会

特に指摘事項はなく、12月定例会の会議録は承認された。

### 4. 教育長の報告

教育長：1月4日に、小・中、義務教育学校及び民間も含めた園の校園長に集  
まっていたいただき、年頭の訓示をさせていただきました。別添の資料を配布し、  
今年の行動指針としてみんなで頑張っていこうと話をさせていただきました。

まず、資料のはじめの「北辰」といいますのは北極星のことで、よく船乗り

など様々な人たちが自分の行きたい方向の目印とする、そういった星です。なぜこの「北辰」という言葉が出てきたのかということ、ここに「辰」の字が入っており、今年は辰年ですので、こういった話をさせていただきました。長浜市の教育界にとっての「北辰」、いわゆる目指すべき方向としては、「誰一人取り残すことなく、全ての子どもたちに真の学力をつけることである」ということを改めて皆さんと確認をさせていただきました。

あわせて、去年は小学生の痛ましい事故がありましたし、しっかりと「自分の命」「人の命」、これを大切にできる子ども、社会をつくっていこうといったことをお話しさせていただきました。

また、管理職の方ばかりでしたので、学校運営の中では各種安全マニュアルの確認と見直し、それから生徒指導における報告、連絡、相談など、非常に多くの若い教員や保育士がいる中で、管理職が「これぐらいは分かっているだろう」、「できるであろう」ということが、実は分かっていたり、感じていなかったりするといったこともあるため、そのあたりをしっかりと、曖昧な思い込みだけではなく、しっかりとした学校運営をしていてもらいたいとお話しさせていただきました。おそらく、この訓示を受けて、3学期が始まるまでの職員会議等で、それぞれが再度確認をしてくれたと思っております。

次に、「学力向上」、「園小中の連携」、「人材育成について」、大きく3点について、述べさせていただきました。学力向上については、まだまだ私たちが目指している「創造性豊かな長浜スタイルの授業」、「早期の保育」といったものができていないのではないかとということ、再度管理職の先生方にお伝えさせていただきました。教え込みの授業や保育では、今、子どもたちに求められている思考力、判断力、表現力を身につけられないということは明白であるにもかかわらず、なかなかその授業スタイルや保育スタイルを変えていけないため、もう皆さんにもご案内が行っていると思いますが、2月の教育研究発表大会に来ていただく工藤勇一先生は、「今までの当たり前を見直し、創造性豊かな学校運営や授業をつくっていこう」といったことを言っておられます。私も同感でして、もう一度、いつもの当たり前を「本当にこれが当たり前なのか」、授業スタイルや自分の学力向上策など、「当たり前と思っていることが本当にそうなのか」ということを見直していただきたい。思い切って新しいスタイルに挑戦していく勇気と創造力、行動力に期待しますとお伝えさせていただきました。

園小中の連携については、よく話題に出している家庭の蔵書数があります。去年の全国学力・学習状況調査の中で、家にある本の冊数について、最も少ないカテゴリーの「0～10冊」を選んだ人数が一昨年度よりも増えており、全国平均よりも小学校で1.5ポイント、中学校で5.7ポイントも高いという結果でした。つまり、市内の子育て家庭はこの結果から推測すると、社会経済力や教育への関心が低く、それは子どもにとっては非常に厳しい地域、この長浜とい

ところが実は子どもにとっては厳しい地域であるということを確認させていただきました。そのような中でも、小学校では非常に学力を上げてくれました。その学校での先生方の努力というものは、本当に頭の下がる思いです。

1つ、例としてお話しさせていただいたのは、1960年代にアメリカのミシガン州のペリー小学校付属幼稚園というところで実施された社会実験です。低所得地域で無作為に選んだ子どもたちに質の高い就学前教育を施されました。ということかということ、子どもへの教育はもちろんのこと、特に親への丁寧な指導や支援が行われました。その結果なのですが、1960年のことですから、今はかなりの年齢になっておられるのですが、相対的に子どもたちのIQが高くなり、高校中退者や受刑者が少なく、納税者が増えたということです。いかに子どもの育ちの中で、親も含めた教育や支援というものが、子どもたちのその後の人生にとって有効であるかが分かる社会実験でありました。このことを長浜市に当てはめてみると、長浜市は非常に厳しい地域であると言いましたが、逆に長浜市においても質の高い就学前教育やそれを引き継いだ義務教育を提供していけば、子どもたちのその後の人生はもちろんのこと、社会全体の未来が明るいものになっていくのではないかという話をさせていただきました。

今年度は、幼小中連携を研究も含めて非常に活発にやっていただいております、小中学校の先生方からは、「初めて園に行き、子どもたちがそこまでできているとは思わなかった」という驚きの声をよく聞きますし、園のほうからは、「自分たちの地域の子どもたちには主体性がなく、指示待ちだ」という話になったようで、「園では保育環境や保育士の関わりを見直して、子ども主体で遊ばせるように工夫している」という話を聞かせていただきました。また、小中学校間でも、ある中学1年生の生徒が「中学校の授業は面白くない」と先生に訴えたそうで、そういった声に発奮して、中学校の先生が小学校の授業を見に行き、「これだけ授業の中でiPadを使った話し合いなどをさせて、アクティブにやっているのか」と思い直し、自分たちの授業を見直しているということや、逆に小学校では、特に義務教育学校の中での話を聞いたのですが、「義務教育の最後である中学3年生では、ここまで学力をつけなければいけないのか。こういった人間性を備えなければいけないのか」と改めて思い、小学校の授業を中学3年生から逆算して授業を工夫しているといった話もお聞きしました。先日も、小学校の先生方と話していたのですが、今でも小学1年生に対しては、なぜか小さな子ども扱いになってしまっているのが、園でのああいった姿を見ると、それではいけないなど。もう少ししっかりと、自分たちで考えさせたり行動させたりしていく、そういった授業あるいは学校生活が必要なのではないかということをつい先日もお聞きしたところです。つけた力をどんどん伸ばしていく、逆三角形型の園小中の連携をお願いしました。

最後に人材育成についてですが、これは「滋賀教育」という、教員や教員OBに配布されているものなのですが、そこに投稿した私の記事を資料として出

させていただきました。中身について、かいつまんでお話ししますと、近年の教職あるいは保育職のブラック化というメディアの論調に一石を投じ、人材不足の原因や実際の先生方の様子を書かせていただきました。その上で、学校や園の教育現場では特に人材不足ということで、今後非常に危機的な状況になっていくのではないかと、その前に何か手を打っていかねばいけないといったことを訴えた内容の記事です。

何が言いたかったかといいますと、働き方改革です。資料にも書いていますが、「人を大事にする姿勢」、これが若者を引き寄せるのではないかと。人を大事にする働き方や組織、それをしっかりとアピールしていかなければならないし、そもそもそういった学校運営や園運営をしていかなければならないのではないかと。若者を引き寄せる未来の学校経営を持続可能にするためには、人に集まってもらわなければいけません。「先生になろう」と思ってもらわなければいけません。「保育士になろう」と思ってもらわなければいけません。ただし、掛け声ばかりだけではなかなか進みませんので、今年、教育指導課の人事室に指示を行い、働き方改革のロードマップというものを作成してもらうように言いました。予算も取りながら、今後学校や園と一緒に本気で取り組んでいきたいと思っております。昨日も教育改革推進室から、特にICTを使った校務のDX化を提案してもらい、今後はそれに向けてどんどん進めていかなければならないと思っております。こういった人を大事にする組織の姿勢が、若者を引き寄せ、また子どもたちにとって憧れる大人の姿、大人の組織になるのではないかと。子どもたちにとっての人生のよきロールモデルになり得るのではないかとこの話をさせていただきました。

最近、委員の皆さんにも学校訪問に行ってもらい、非常にびっくりするような子どもたちの姿も見えていたと思っております。実は、私もこの学校に14年在籍しております、本当に本音で子どもたちと向き合わなければ、全く何も聞いてくれないのです。逆に言うと、では自分の人間力や人間性、先生としての言葉ではなく、人として、大人としてこういった言葉がかけられるのか、こういった接し方ができるのか。ひょっとすると、今は引いているだけの若い先生かもしれないのですが、そういったことを学んでいただき、子どもたちと一緒に成長してもらえたら、そういった組織をつくってもらえたらと思っておりますし、教育委員会としても、そういった学校を応援していければと思っております。どうぞ今年もよろしくお願いいたします。

## 5. 議案審議

### 議案第1号 長浜市園職員（短期間勤務）候補者登録制度実施要綱の制定について

教育長は事務局に説明を求め、幼児課長から資料に基づき説明があった。  
主な質疑応答は以下のとおり

教育長：さきほどの私の話にもありましたが、人材不足はかなり厳しい状況ですか。

幼児課長：そうですね。いろいろとあの手この手を尽くしているのですが、やはり厳しいので、これもその一つの手ということで、少しでも現場の混乱が少なくなるようにという思いです。

前田委員：実現は可能ですか。なぜかいうと、これだけ人材不足と言われていて、このように登録しておき、必要なときに呼んでくださいということですが、私も経験がありますが、人材確保のために現場に行ったりなどして声をかけて、何とかお願いしますと足を運んで頼んで、やっと来てもらったというのが実情です。登録してもらって、必要なときにリストの中から何番目の人に来てもらう、これは現実的なのでしょうか。

幼児課長：どこまで登録者が増えていくかは、やってみなければ分からないところはありますが、現時点では、今年度末で退職される方などに、もし可能であれば登録だけでも検討していただければという形でお声かけするであるとか、取りあえず器をつくってトライしてみるという気持ちでいます。

教育長：人材確保のための、あの手この手の一つです。また、別のことも考えなければいけないかもしれないですね。

その他に意見はなく、各委員とも異議なしということで原案どおり決定された。

## 6. 協議・報告事項

### (1) 長浜市保育所規則の一部を改正する規則の一部改正について

教育長は事務局に説明を求め、幼児課長から資料に基づき説明があった。  
質疑なし

### (2) 長浜市立保育所等延長保育事業実施要綱の一部改正の廃止について

教育長は事務局に説明を求め、幼児課長から資料に基づき説明があった。  
質疑なし

### (3) 長浜市民間認定保育所及び認定こども園運営補助金交付要綱の一部改正について

教育長は事務局に説明を求め、幼児課長から資料に基づき説明があった。  
質疑なし

### (4) 長浜市病児保育施設整備費等補助金交付要綱の一部改正について

教育長は事務局に説明を求め、幼児課長から資料に基づき説明があった。  
主な質疑応答は以下のとおり

教育長：前も聞いたかもしれませんが、病児保育施設は市内にはどれぐらいあり

ますか。

幼児課長：2か所です。高月地域と六荘地域にもあります。

教育長：どれぐらいの利用者がおられるのですか。病児保育というのは、病気の子どもをお預かりするのですか。

管理監：病気の子どもをお預かりするというのが病児保育とといいます。

教育長：お預かりするのは、期間的には短いのですか。

管理監：そうですね。お医者さんの判断にもよりますが、もし病児でなくなれば、今度は病後児という形になったりします。病気についても、既に発熱して園には預けられない子どもをそちらの施設でお預かりするという形になります。

教育長：その施設が2か所あるのですね。

管理監：はい。

教育長：使用率はどうですか。

管理監：かなりの使用率になっています。

## 7. その他

## 8. 閉会

教育長から閉会宣言があった。